

# 平成29年度事業計画

平成29(2017)年、成城学園は創立100周年を迎えます。澤柳政太郎が日本の初等教育改造を志して大正6(1917)年に小学校を創設して以来1世紀。その伝統の上に、次の時代を見据えた「成城学園第2世紀ビジョン」を策定し、魅力ある学園に向けて邁進しております。

**成城学園は、何時の時代にも「質の高い教育」を実践し、未来を切り拓いていける人を育てます。**

- \* 「感性」を磨き、「知性」を高める学園
- \* 「個」を鍛え、「社会性」を育む学園
- \* 「日本」を知り、「世界」を理解する人を育てる学園
- \* 「自然」に学び、「街」とともに歩む学園
- \* 「学術研究」を深め、「教育研究」の成果を実践する学園

このビジョンを実践するための中長期的具体策が、「教育改革」「教育環境整備」「地域・社会連携」を3つの基盤とする「成城学園第2世紀プラン」です。

その中核となる「教育改革」では、“国際教育”“理数系教育”“情操・教養教育”を教育改革三本柱と位置付け、質の高い教育を維持・発展させていきます。具体的には、“情操・教養”を育む学園伝統の教育を発展させつつ、英語一貫プログラムを中心とした“国際教育”で本当に使える英語力と国際的視野を養成、さらに“理数系教育では”科学的思考力も養うことで、論理的・理性的に思考し、話し合い、最適解を導き出せる能力を育成するための教育を充実させていきます。

また、「教育環境整備」では、豊かな自然環境との共存を意識しながら、学園全体の教育環境を計画的に整備します。「地域・社会連携」では、生涯学習支援事業、産学官連携他、学術・教育研究等の“知”を積極的に発信し、社会への還元をします。

本事業計画書は、これら「成城学園第2世紀プラン」に基づき幼稚園から大学・大学院までの各設置学校と学園が策定した平成29年度実施の事業概要について記載しております。

## 《平成29年度事業活動収支予算概要について》

平成29年度事業活動収支予算について、学園創立100周年記念事業に係る支出予算を計上したため、収支差額は12億8,400万円の支出超過となり、翌年度繰越支出超過額は90億2,800万円となる見込みです。各収支および基本金組入額の概要は以下のとおりです。

### 1. 教育活動収支

収入面では、学生生徒等納付金に関しては、平成29年度在籍者数の見込み及び平成27年度実施の大学の納付金額改定、平成29年度実施の中学校・高等学校の納付金改定を加

味し、89億4,300万円を計上いたしました。手数料収入は、平成29年度入試の各校志願状況を考慮し、4億2,400万円といたしました。寄付金は、未来募金のうち1,500万円を特別寄付金に、一般寄付金を平成28年度の実績から1億9,700万円計上いたしました。補助金に関しては経常費等補助金を9億7,200万円計上いたしました。以上の結果から、教育活動収入は108億7,500万円となりました。

一方、支出面では、人件費予算は、人数の増加を極力抑えたうえで定期昇給分及び退職者数の増による退職給与引当金繰入額の増加等を加味し、66億1,900万円と算出いたしました。教育研究経費は、第2世紀プラン教育改革経費、学園創立100周年記念事業経費等などにより、35億2,100万円を計上いたしました。また、管理経費は、学園広報経費、未来募金関連経費、学園創立100周年記念行事費などにより、7億8,900万円を計上いたしました。以上の結果から、教育活動支出は109億2,900万円となりました。これら収支の状況から、教育活動収支は5,400万円の支出超過を見込んでいます。

### 2. 教育活動外収支

昨今の為替、金利等、運用環境の改善に鑑み、資産の運用収入(受取利息・配当金)を1億400万円計上いたしました。これから借入金等利息を除いた教育活動外収支は、8,500万円の収入超過を見込んでいます。

教育活動、教育活動外の各収支の結果、経常収支は3,100万円の収入超過となる見込みです。

### 3. 特別収支

収入に施設設備寄付金として未来募金の3億5,400万円に、施設設備補助金を合わせて3億6,800万円を、支出に第1グラウンド既存設備取り壊し、および除籍図書等の処分差額1,200万円を計上した結果、特別収支は3億5,600万円の収入超過を見込んでいます。これらの各収支に予備費2億円を計上し、基本金組入前当年度収支は1億8,700万円の収入超過となる見込みです。

### 4. 基本金組入額

第1グラウンド人工芝化工事、初等学校本校舎改築工事中に使用する旧中学校校舎の改修工事、幼稚園園庭整備工事、初等学校本校舎改築工事設計監理料等の資産取得による組入額12億900万円、加えて借入金の返済による組入れ1億5,600万円、創立100周年教育環境整備事業に係る先行組入れ2億円などの組入れから、第1グラウンド既存設備取り壊し、施設設備の老朽化に伴う取崩しなど、資産の除却等による取崩し分1億1,900万円を減じ、基本金組入額は14億7,000万円となりました。

## 第2世紀プランの実践

### 1 教育改革事業

次の時代を見据え、  
未来を作る高度な教育を実現します。

#### A. 国際教育

##### ■ 学 園

第2世紀プラン「三つの柱」の1つである国際教育については、学園を一貫する魅力的な英語教育プログラムの構築を目的として、平成27年12月に学園経営執行会議のもとに「成城学園英語一貫教育推進検討委員会」を設置した。委員会では平成28年5月に英語一貫カリキュラムの中核をなす中高の一貫カリキュラムについて基本構想を第1次答申としてまとめ、次いで平成29年1月に第2次答申として幼稚園・初等学校の英語一貫教育カリキュラムの骨格についての基本構想を発表し、幼稚園から高等学校までの英語一貫カリキュラムについての基本構想を取りまとめた。

これら2つの答申に基づいて、平成29年度には以下の事業を実施する。

##### (1) 中学校高等学校

- ① 中学1年生、高校1年生にe-learningのソフト(DynEd)を組み込んだTablet-iPad miniを配付し、それを「聞く」・「話す」(Oral)の自宅学習に活用する。
- ② 平成30年度からの新教科書(OUP:Oxford大学出版局発行)を用いた授業に移行するため、平成29年度に引き続き教員研修を実施する。

##### (2) 初等学校

- ① 平成29年度は、中学に進学後も新しい英語教育にスムーズに移行できるようにするため、先行的に5年生と6年生は中学と同様にOUPから刊行されている教科書を採用して授業を実施する。
- ② 答申で示された1・2年生週1コマ、3・4年生週2コマ、5・6年生週3コマ体制へスムーズに移行できるよう各学年の英語教育の具体化を検討する。
- ③ 「特色ある成城英語」の実現に向けて、検討を行う。
- ④ 教員研修を実施する。

##### (3) 幼稚園

- ① 答申で示された「聞く」・「話す」活動に重点を置いた英語活動を推進するため、これまでの実績を踏まえたうえで、幼稚園のカリキュラムに英語教育をどのように取り入れるか研究を行い、実施する。

- ② 英語教育を一層充実するため、園児が様々な形で「英語」と触れ合う機会を増やす。

##### ■ 大 学

###### (経済学部)

平成29年度入学生より新しい英語カリキュラムを導入し、少人数習熟度別クラス編成、セメスターごとのクラス替え、レベル別統一教材の採用を実施する。より意欲的に英語に取り組もうとする学生を対象として国際センターと連携した履修プログラムを開始する。さらに、より向学意欲に富む学生の要望に応えるために、英語ディプロマコースの設置の検討に入る。

###### (文芸学部)

平成27年度より開始された英語カリキュラムSEEの教育効果をさらにあげるために、統一教材としてのE-Learningをレベル別クラス編成に応じて柔軟に活用し、学部の国際教育を深化させる。なお、使用するE-Learningツールの変更を引き続き検討する。

###### (法学部)

「外国語による授業」を見据え、教員の語学力の維持・向上を図るための短期海外研修制度や国内研修制度を確立する。

###### (社会イノベーション学部)

<英語カリキュラム改革>

新カリキュラムが2年目(完成年度)を迎える。入学時のブレースメントテストによるクラス編成、2年次の必修英語における卒業要件水準設定等により、「英語による実践的コミュニケーションを行う能力」を涵養する教育を推進する。

###### (国際センター)

4月から「成城国際教育プログラム(Seijo International Education Program:SIEP)」を立ち上げることで新しいステージに入る。

具体的には、特別任用教員(SIEP担当)1名をセンターに採用し、日常的に学生指導をできる体制を整える。

SIEPでは、その中核と位置づけられる「留学準備演習」を国際交流科目の中に開講し一人ひとりの学生へのキメ細かな留学のための支援を行う。SIEP登録者には、この演習とセットで実施する課外講座(英語の特にWritingにおける日本人学生の弱点対策)の受講や夏季・春季休業期間を利用した強化合宿の特訓による弱点克服の支援も行いながら、外国人留学生在が履修する国際交流科目群の積極的な履修を促していく。

そして、本学のより多くの学生が英語でのアカデミック・スキルと国際教養の基礎をしっかりと身に付け、2年次・3年次に海外留学やインターンシップにチャレンジできるよう

な指導を行っていく。

また、「留学プログラムの多様化」として、引き続き協定校の拡大を図るとともに、1年未満の留学における単位修得プログラムやキャリアセンターと連携して海外就業体験プログラムの開拓も鋭意取り組んでいく。

すでに活発に行われている課外講座「毎日が英会話」や様々な国際交流活動についてもSIEPの導入により一層の活性化を図る。

## ■ 中学校高等学校

留学をはじめとする国際交流をより一層活発にしていく。

北海道に行っていた中学校の修学旅行を今年度より研修旅行として福島県にあるブリティッシュ・ヒルズに変更し、すべての生徒がネイティブとの交流ができる場を作り出すことにした。

中学でのセント・ノバート校への短期留学、高校でのカナダ語学留学、姉妹校であるマクダナ校への長期・短期の留学、ジェイセラ校への長期留学についてはさらに充実して行えるような取り組みを行う。昨年度ラグビーで交流したイギリスのクライスト・カレッジ・ブレコン校とも提携を結べるよう話し合いを進める。すでに相手校からは受け入れの意思を提示されている。

高校の課外教室で行っているヨーロッパとアジアへのコースもより多くの生徒が参加できるよう努力を続ける。

成城大学の協力のもと、昨年度はフランスデイトスパニッシュデイトという、海外からの留学生と中高生との交流会を持ったが、今年度もさらにそれを発展させる形で継続していきたい。同じく成城大学の英文科の学生と中高生の交流も継続していく予定である。

高校に在籍してきたネイティブの専任教諭に中学校の英語教育にもかかわりを持たせ、中高全体での会話力アップを図っていく。

英語の授業を充実させるためにタブレットでの学習を導入するが、機器がスムーズに利用できるような環境整備を行っていく。同時に非常勤のネイティブ教員などにもそういう機器が活用できるよう、積極的に研修に参加してもらえような方向を目指す。

グローバル・ゾーンには現在3,000冊ほどの貸し出し可能な洋書を備えているが、多読を奨励するために一層図書を充実させていく。

これまで外国語科に任せる部分が多かった「英語検定」を中高全体で取り組み、より多くの生徒が目標の級を取得できるようにバックアップしていく。

## ■ 初等学校

昨年度は、学園執行部直属の「英語一貫教育推進検討委員会」が「中高部会」と「幼初部会」を立ち上げた。これは成城英

語一貫カリキュラムを実働させるための検討委員会である。初等学校は幼稚園との連携の中で児童の発達段階を考慮したカリキュラムを設定する。幼稚園から小学校低学年での狙いは、英語を聞き取れる力を伸ばし、かつ積極的に外国人と接することができるコミュニケーション力を高めていくことである。これが初等学校の英語の入り口となる。そして、中学校高等学校の英語カリキュラムとの連携においては、初等学校の6年生は英検4級相当の英語力をつけることが課せられた。これが出口である。

初等学校では、このようにして入り口と出口が設定されたことにより、6年間の英語教育を抜本的に見直していくことになった。まずは教科書を変更する。学園中学が使用する教科書と同じ会社のものを使用することによって、教授内容に一貫性を持たせる。次に教授方法を一新する。従来のインタラクティブを中心とした教授法から4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」を重視した方法に変更する。さらに将来的には英語活動の中に「劇」や「音楽」も取り込み、表現としての英語も楽しめるようなカリキュラムの作成も視野に入れる。そしてこれらの内容を実現させるために、全学年の英語の授業時間を増やす。それに伴って英語の専任教員も増員する。

これからの初等学校の英語教育は大きく変更することになるだろう。そして成城英語一貫カリキュラムの中で、初等学校ならではの特性を活かした英語教育の確立を目指していく。

また、毎年夏に実施している「オーストラリア・ホームステイの旅」も平成29年で18年目となる。さらに異文化理解に焦点を当てた社会科の単元「世界の国から」もある。成城大学の留学生を初等学校に招き、子どもたちに自国の説明や、伝統的な遊びを教えてもらう授業である。これまでも2年生や5年生で実施してきたが、今後も継続して行っていく。

## ■ 幼稚園

### (1) 学園英語一貫教育への接続に向けて

幼稚園の英語活動は平成25年度より外国人講師による活動が始まり、平成29年度は英語活動導入5年目に入る。英語活動は、①自由遊びや一斉活動など、子どもたちの活動の中に参加。②各クラス英語活動の実施。③合同活動(3学年)での英語活動など、外国人講師との連携を図りながら活動の幅を広げてきた。英語活動の成果の一つとして、平成28年度3学期に実施された学園音楽祭では、外国人講師とともに、全員で「How's the Weather」を合唱し大きな喝采を得た。平成29年度は、現在学園で検討を進めている「学園英語一貫教育カリキュラム」初等学校英語カリキュラムへの接続に向けて、「遊び」や「生活」を通して充実した英語活動の実践・研究を深める。

### (2) 外国語(英語)活動の充実

平成29年度は外国人講師による活動時間増により、年長・年中・年少3学年6クラスの外国語(英語)活動の充実を図る。

具体的には、従来週2日の外国人講師による英語活動を週3日(1日増)とし、各クラス一斉活動における活動機会および活動時間の増を図る。また、行事や3学年による合同活動の中に英語活動を組み入れる機会も増え、英語を聞き・話し・歌うことや、英語によるパフォーマンスの機会を通して、英語に触れる機会を活用する。

### (3) 外国語教材の充実

平成28年度に引き続き、図書コーナーや各教室への外国語絵本や幼児向け英語教材の充実を図り、子どもたちの外国語活動を促進させる。

### (4) 学内連携による留学生との交流活動の推進

海外提携校から訪れる成城大学への長期留学生、高等学校連携校からの短期留学生など、学園内で学び活動する留学生たちとの交流を通して、外国語や異文化に接する機会を多く持つようにする。

## B. 理数系教育

### ■ 学 園

学園各校の理数系教育の充実を図るため、平成25年7月に「理数系教育連携ワークショップ」を発足させ、高等学校の理科教員による特別授業が、初等学校で行われるなどの具体的な成果が現れている。

文理融合の時代において、魅力ある理数系教育を行っていくことは、理系大学に進学を希望する生徒や、理系の職業に就く人材の育成のみならず、生きる力を育成するという観点でも、すべての園児・児童・生徒・学生が、観察する力や論理的な思考力を養うことはとても大切なことである。

今年度は、初中高の各学校の連携をより深め、科学的事象に対して児童・生徒の興味・関心を高めるイベントを実施するなどの事業を行い、ワークショップの活動を継続的に強化していく。

### ■ 大 学

第2世紀プランの柱の1つである「理数系教育」の充実のために、日本アイ・ピー・エム株式会社東京基礎研究所との包括協定に基づき、「全学共通教育科目」の中に「データサイエンス科目」を新設し、平成27年度に、基礎的な科目として、「データサイエンス入門Ⅰ」、「データサイエンス概論」を、平成28年度は、「データサイエンス入門Ⅱ」、「データサイエンス応用」を開講した。

平成29年度は、それらに加えて、発展的な科目として、「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」、「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」の2科目を開講する。これにより、「データサイエンス科目」の6科目すべてが揃い開講されることとなる。

### ■ 中学校高等学校

南校舎の完成により、理科実験室が8教室確保でき、施設の上できわめて充実した授業が行えるようになる。本校の規模でこの実験室数は群を抜いており、誇れるものとなるだろう。観察・実験を重視する成城学園の理科教育の拠点となるはずである。

実験室内の設備も理科教育振興法による助成も利用しながら、高い水準のものを備えていく。実験の準備等を行う理科助手もこれまで同様に配置し、実験室がフル稼働できるように整備していく。

昨年度も行ってきたサイエンス教室を発展させ、外部からの講師も招きながら、理数系の学問への興味関心を高めていく取り組みを行っていく。

数学については中学での分割少人数授業をより合理的に組み替え、無駄のない授業を展開していく。また高1での先取り授業も引き続き行っていく。

高2・3における理数コースの卒業生を成城学園における理数教育の成果と言えるようなレベルに高めていくよう、受験体制へのバックアップを充実させていく。高2には元教務部長の教諭を理数コースの担任として配置し、生徒への支援を充実させていく。

昨年度も医学部をはじめ、評価できる結果を生んでいるので、広報も含め、理数系に力を入れている学校であることのイメージアップを図りたい。

### ■ 初等学校

子どもたちの「論理的思考力」を高めていくために、数学・理科だけでなく、様々な教科で子どもたちの論理的思考力のベースを刺激していく。例えば低学年の「散歩」の時間に見つけた花を、教室に帰ってきたときにすかさず図鑑で調べるとか、高学年の「映像」の時間に短編映画制作の計画をみんなに説明する等の活動を、「論理的思考力」を高めるために、より意図的に強調して取り組ませるようにする。

数学に関しては、学園中学校と連携して初等学校6年生の基礎学力を項目立てる作業を行っていく。そして一人ひとりの基礎学力の定着度をチェックして学園中学校に送り出す体制を作っていくようにする。

理科では昨年と同様に、初等学校の伝統的な授業方法であった「仮説実験授業」の要素を引き継ぎ、子どもたちが論理的に仮説を立てていく思考方法を育てていく。さらに、実験や観察を数多く体験させることで自ら疑問を発見し、それを解決していく意欲的な態度を培う。また、理科の初中高ワークショップにおいて、初等学校から高等学校までの一連のカリキュラム研究を行い、子どもたちの理学的な興味を次の学校へつなげていくための方法も継続して検討している。

## ■ 幼稚園

### (1) 自然観察のフィールドワーク(園庭整備計画の実施)

園庭整備計画が実施されることにより、園庭の小さな森を形成していた中高木群に生気が蘇るとともに低木群が整備され、虫探し、葉っぱ集めなど、より活発なフィールドワークが期待できる。また、新たに設置される「回廊」、「ツリーハウス」などの施設を用いて「鳥の眼」「虫の眼」を通しての自然・樹木観察が可能となる。そして、「水遊び」スペースでは、夏季に行われる水流を利用した様々な実験・観察、冬季に行われる氷の観察など、理科学的な興味関心の深まりを目指した活動が可能となる。

### (2) 環境学習の推進

成城学園と東京農業大学との連携の一環として、大学生による年少・年中・年長各学年での環境学習授業は、平成29年度、4年目の活動年を迎える。これまでの授業実践および成果を踏まえて、さらに充実した「環境学習」を東京農業大学の協力を得て行う。また東京農業大学「伊勢原農場」の利用に向けて協議を進め、充実した体験学習を実施する。

### (3) 学内連携による理科(実験)授業の推進

「観察」「実験」などの活動を通して、子どもたちの理科学的な興味関心を育てることを目指して、初等学校・中学校高等学校各校の協力を得て様々な理科の授業を実践する。

## C. 情操・教養教育

### ■ 学園

成城学園には情操・教養教育の伝統があり、大正6年創設の成城小学校に始まり、成城幼稚園、旧制七年制成城高等学校、そして新制成城学園各校がそれぞれの特色を発揮しながら情操・教養教育を実践し、高い評価を受けてきた。平成29年、学園創立100周年を迎えるにあたり、第2世紀プラン「三つの柱」の一つとして、学園内各校が「情操・教養教育」の質を高めるとともに、その伝統に磨きを掛け、さらに発展充実させるべく全学園的な取り組みを行う必要がある。

①幼稚園から高等学校では充実した芸術教育活動が展開されており、年間行事を通して発表・展示の場が豊富にあり、上質な芸術を鑑賞する機会も多く設けられている。また、幼稚園、初等学校の「劇」活動は、情操面の育成に大きな効果を上げ、質の高い総合学習として機能している。

このような恵まれた教育環境を踏まえ、幼稚園から大学までの一貫教育の中で情操教育が果たすべき役割や、成城学園が求める人間像の形成に情操教育がどのように機能すべきかについて、学園横断的に議論し、検討していく。

②平成28年度より運用されている中高一貫新校舎内の図書室は、中高生が活発に利用しており、教養教育のもっとも根底にある基盤として大いに機能している。また、幼稚園

から高等学校までの保護者の中高新図書室の利用も可能となり、教養教育は「三位一体」の活動としても位置づけられる。

③初等学校新校舎では、児童がいつでも図書に触れ楽しく読書することのできるようにするため、従来の閉ざされた「図書室」ではなくオープンな図書スペースを設ける計画を実現する。

④学園の情操教養教育のさらなる充実のために各校の図書館・図書室が果たすべき役割は非常に大きい。そのため「学園図書館図書室連絡会」を設置し、図書館図書室の活動を推進してきたが、情操教養教育のさらなる充実を目指し、「知」の発信地としての図書館図書室本来の役割を十分に果たす必要がある。アクティブ・ラーニングへの取り組みやICT環境の充実に向けて、教科・学科と各校図書館図書室との密接な連携強化の模索など課題は多く、情操豊かな教養人の育成を目指して「学園図書館図書室連絡会」の在り方の検討を含め実効性のある取り組みを行う。

### ■ 大学

#### (文芸学部)

平成27年度に開始されて3年目を迎える「文芸講座」とこれと連動する文芸学部のためのWRD科目について、これまでの成果を確認し、必要な修正を行うことにより、両科目の充実を図る。

#### (図書館)

- ライブラリーサポーターの活動支援  
サポーターが企画する展示やイベント等を支援するほか、他大学との交流をサポートする。
- 上映会の開催  
映画を通じ、教職員や学生が教養を深める場を提供する。

### ■ 中学校高等学校

多くの授業や行事で自己表現を行う機会があるが、それらを互いに有機的に結びつけ、多くの人の目に触れるよう工夫していく。国語での作文発表や冊子作り、英語のスピーチコンテスト、音楽での合唱コンクール、情報の集中講義での発表会、保健体育でのダンスの発表など様々な取り組みを、教科内だけのものではなく学校全体で応援していきたい。

キャリア教育として位置づけている「16歳の仕事塾」や「成城大ミニ講義」などは教養を深め、視野を広げる取り組みとしてさらに充実させながら継続していく。

課外教室や自由研究での多くの講座は、情操・教養教育に多大な貢献をしてきた。意義のある講座は今年度も引き続き行い、新たな講座の立ち上げも促していく。今年度は本職のラジオDJの方と一緒に番組を作成し、ローカル局で実際に放送する自由研究なども成立している。

昨年度は卒業生で日本画家の福王子先生の絵を001教室

の前に設置することができたが、今年度も卒業生の彫刻家によるオブジェをはじめとして、すでに所蔵している作品も含めて芸術作品の設置をいくつか行い、日常的に本物に触れるという学園が大切にしてきたコンセプトを実現していく。

文化祭や体育祭は生徒たちが非日常の中で自己表現できる大切な場である。どちらの行事も今年度からは中高共同で行うことにし、高校生にはよりリーダーシップを発揮できる場として、中学生にはのびのびと活躍できる場として改編していく。これまで中学は運動会、高校は体育祭と名称も違っていたが、今年度からは「飛翔祭」と銘打って、統一させていく。

芸術棟の本格的な利用が始まるが、音楽・美術・書道での有効な活用についてさらに検討を深める。

昨年度から開館時間を大幅に延長した図書室は引き続き開館時間を生徒が利用しやすい形に整え、またビブリオバトルへの参加など読書指導の取り組みも継続していく。

生徒の組織を改編・統一し、学校行事や生徒会活動もより活発に行えるよう促していく。

## ■ 初等学校

初等学校では今までも、これからも充実した芸術教育活動を展開していく。

年間行事を通しての発表・展示の場を豊富に設定し、上質な芸術を鑑賞する機会も多く設けている。文学科・劇科・映像科・舞踊科・美術科・音楽科などが主に情操の教育を担当する教科であり、それらの教科をさらに発展・充実させていく。

また、平成27年度に新設した新教科「つながり」科も異年齢教育の狙いを順調に達成している。異年齢活動は、兄弟姉妹の少ない家庭が増えていることから、子どもたちに実感として「思いやり」や「やさしさ」といった豊かな情操面の体験を味せる格好の場となっている。

行事では、『劇の会』の上演(年3回、3～6年生1クラスずつ)や、『音楽の会』の開催(年2回)、『運動会』(年2回)のさらなる充実を目指す。

読書に関しては、平成26年度から5・6年生の火曜、水曜、木曜の朝10分間の読書「朝読書」を始めた。週3回に読書の時間を設けたことで、より日常的に習慣的に本と親しませることに役立っている。

初等学校の情操教育は、外部からも高く評価されている。だからこそ、現状に立ち止まらず、さらに充実させていくことが必要である。上質の情操体験をすることで感性が豊かになり、感受性が磨かれる。そして「自分のやりたいこと(自己実現)」や「思いやり(他者理解)」の意識を高めるにつながっていくのである。

「機械的に詰め込まれた知識」から「使いこなすことができる知識」へ、さらに「机上論」ではなく「体験によって身につけた知識」へと、実践を通して知識を会得していくことが小学生にとって『教養を高める』ことにつながるのである。

## ■ 幼稚園

### (1) 言語教育の充実

文字教育導入以前の幼児期においては、「聞く(聴く)こと」・「話すこと」は非常に重要な活動となる。コミュニケーションツールとしての言葉を習得するだけではなく、日本語の基礎をしっかりと固めることに重点を置く。日本語による「聞く」・「話す」能力を高めることは、聴覚機能の盛んな幼児期の子どもたちにとって、外国語(英語)を「聞く」・「話す」能力を高めることにもつながることに留意して、教員との対話・読み聞かせ活動・劇遊び・創作劇活動などを通して子どもたちの言語能力を高める。

### (2) 芸術活動の推進

芸術教育の伝統は成城学園の情操教育の大きな柱として、今日まで内外から高い評価を獲得してきたが、情操面の発達を通して人間教育の優れた研究・実践活動として深めていく。

音楽教育は、合唱・楽器演奏を中心に様々な試みを通して演奏技術を高めるとともに情操面の発達を促す。さらに、リズム表現活動と連携して音感・リズム感の育成を図り、聞き取り表現する力を高めることで、言語活動の充実、特に英語を聞き取り表現する活動にも寄与することにも留意して活動を深める。美術教育においては、絵画・造形・製作活動を通して、子どもたちの創作意欲を高めるとともに、子どもたちの感性を磨き、発想力や独創性を高める教育を目指す。

### (3) 図書の充実

各教室の図書と図書コーナーに配置する書籍について、子どもたちの情操を豊かにする上質な書籍を増やし、子どもたちの知的好奇心に応える書籍の充実を図る。また、「読み聞かせ」の活動を通して子どもたちの情操面の発達を促すとともに、保護者に対しても、子育てに資する書籍を充実させ、閲覧できる環境を整える。

## D. その他 教育改革の取り組み

### ■ 大学

①平成28年度までは、3月のみの卒業(修了)であったが、平成29年度以降は、原級留置(留年)となった者で、前期末に卒業(修了)要件が満たされた者について、9月での卒業(修了)を可能とする。

②現行は、1授業時間を90分とし、半期15週の授業期間としているが、平成30年度以降に向けて、1授業の時間と半期の授業期間の見直しについて引き続き検討を進める。

③平成28年度までは、卒業要件を満たした学部学生のみ「卒業延期制度」があったが、平成29年度以降は、研究科(大学院博士課程前期)についても、修了要件を満たした学生の「修了延期」を可能とする。

④系統的履修のための「授業科目のナンバリング」や、さらな

る「セメスター制度」の実現へ向けて引き続き検討を進める。  
(経済学部)

平成29年度新入生から経済学科・経営学科とも初年次の基礎的教育の充実を目指した新しいカリキュラムを導入する。

(文芸学部)

学部独自のキャリア支援である「はばたきプログラム」(平成25年度より実施)の内容を、縮小の可能性を含めて見直す予定である。

(法学部)

- ①授業と課題を「反転」させた授業形態を実施する。事前に音声化された講義概要を視聴し知識を獲得する一方、授業ではその知識を使って課題に取り組み、理解を深める「学び」を実践する。
- ②パワー・ポイントで問題を作成し、リモコンで解答するクリッカーシステムを活用することにより、教員が問いかけ、学生が答える双方向・学生参加型の授業を、大規模講義(平成29年度は100名まで利用可能な規模を想定)においても実現できるようにする。

(教育イノベーションセンター)

- ①ピアチューター制度の導入【図書館・教務部等連携事業】  
学修面をサポートするピアチューター制度を導入することにより、図書館のライブラリーサポーター、キャリアセンターの就業力サポーター、国際センターの国際交流サポーターなどをはじめとした、主体的に活動する学生の活躍の場を「学び」へとさらに広げ、学生同士の学びあいの環境をより一層整備する。本年度前期にピアチューターの募集を行い、所定の研修を経て、後期から活動を開始する。
- ②「第2世紀成城コンピテンシー(仮称)」の策定  
学生の目標設定の指針とするため、正課、正課外、課外活動などを通じて本学の学生が身に付けるべき資質・能力(コンピテンシー)をニーズ調査(卒業生ヒアリング調査、企業アンケート調査、卒業生アンケート調査等)により明確化し、それらを総合して策定する。
- ③IR(インスティテューショナル・リサーチ)活動の体制強化  
専任のIRer(IR業務担当者)を配置し、本学における教育活動の実施状況および教育の成果に関する定量的・定性的な分析を継続的に行うことにより、各学部での教育内容・方法などの改善を支援する。
- ④「汎用的能力測定テスト(PROG)」の3年次への実施  
学生が自らの汎用的能力を理解するためのテスト(PROG)を全学部の新入生対象に実施するとともに、平成27年度に受験した経済学部および社会イノベーション学部の3年次に再度実施し、入学時からの能力の伸長を測定・把握する。
- ⑤武蔵大学との相互評価の実施  
自己点検・評価活動の信頼性と妥当性を高め、双方の大学における内部質保証システムの一層の充実へつなげてい

くことを目的に相互評価を実施する。平成29年度は本学が被評価校となり、武蔵大学から評価を受ける。

(キャリアセンター)

学外からも高い評価を受けている「キャリア教育」については、6年目である平成28年度にカリキュラム改革を行い、平成29年度より新たなカリキュラムが始動する。

## ■ 中学校高等学校

教員の組織を中高一本化し、動きの良いものに改編していく。部長を中高それぞれに置くことをやめ、入試広報部を新設することで、校長・副校長・5部長の執行部体制を作り、そのもとに校務分担を配置していく。

職員会議も中高全職員の全体会は回数少なく開催し、日常は各部の権限を強める形で臨機応変に小回りが利くように運営していきたい。

中学校のクラス数を高校と同じ1学年7クラスとし、これによって1クラス34名程度の生徒数を実現し、より少人数の教育を多くの授業で展開できるようにする。全体的には少人数教育が進むことになるが、部分的には分割授業をやめ人件費の増大を抑制する工夫を行っていく。

教育課程の変更を見据え、中学での道徳教育導入や高大接続の改革をにらんだ対応について研究・準備を強めていく。

## ■ 初等学校

### (1) カリキュラムの大改革(初等学校の将来計画)

第2世紀の初等学校の教育を見直していかなければならない。当面の問題としては英語の授業時間数を増やすことに伴い、初等学校の教育カリキュラム全体を見渡し、改革していくことになる。7時間目の設定、土曜日の登校、長期休暇の短縮等を視野に入れてのカリキュラム改革を検討していくことになろう。そうなると各教科の授業時間数も週あたりのコマ数での計算ではなく、年間を通じての総時間数でとらえていくことになるかもしれない。

大変大きな課題である。しかしこの改革を行うことによって、初等学校の第2世紀における教育の方向性や存在意義を自らに問い、認識していくことになろう。まさに初等学校の将来計画立案作業なのである。そしてそのためにはこれまでの慣習にとらわれない、新しい考え方も導入していかなければならない。今年度から初等学校はそういう意味での「カリキュラム大改革」に着手することになる。

### (2) 入学試験の合否通知をWeb配信

昨年、従来受験番号を掲示板に貼り出す方式を廃止し、受験者それぞれがWebで合否の確認ができるようになった。昨年はほとんどトラブルもなくスムーズに実施することができた。受験生の家庭からおおむね好評であった。よって今後もこのシステムで実施していく。

### (3) 昼食のデリバリーシステムを検討

ひと昔前の母親はそのほとんどが専業主婦であった。それゆえ手作りのお弁当を持たせることは「普通」であった。しかし現在は共稼ぎの家庭が増えており、「学校給食」を望む声が大きくなってきている。また受験希望の家庭でも「学校給食」の有無は、学校を選択する際の条件として大きな比重を占めている。

ただし、初等学校の敷地では、給食室を作り学校給食を実施することは不可能である。そこでデリバリー業者によるお弁当の注文を検討している。

このシステムによって、仕事を持っている母親や介護を必要としている家庭の手助けをしていきたいと思う。

## ■ 幼稚園

### (1) 幼児教育の充実

教育改革の実行・実現に向けて、92年に及ぶ幼児教育の伝統を踏まえ、平成28年9月理事会で発表した「幼稚園教育改革」を実行する。また、文部科学省次期学習指導要領改訂（平成32年度から）に先駆け、平成30年度から改訂される「幼稚園教育要領」の内容を踏まえ、幼児教育の先進実践園としての評価を獲得すべく「幼稚園教育改革」を実行し、教育内容の改善とその可視化の作業に取り組む。

### (2) 教育プログラムの再構築

子どもの行動・生活観察をさらに深めるとともに、子どもたちの能力・資質を育み伸ばす教育プログラムの再構築と実践に取り組む。

- ① 学園が推進する教育改革「3つの柱」（国際教育、理数的教育、情操・教養教育）の具体的な取り組みを実践し、その成果を検証するとともに可視化に努める。
- ② 平成30年度に改訂される新「幼稚園教育要領」で示される、「幼児教育において育みたい資質・能力（3項目）」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10項目）」の各項目において、遥かに高いレベルでの達成を目指し、その先進性が可視化されるようにする。
- ③ 文科省が次期学習指導要領改訂の主要な柱とする「主体的な学び（アクティブ・ラーニング）」の先進実践幼稚園として、創設以来の伝統である「子どもの主体性・自発性の尊重」に基づく「自由遊び」の質を高めるとともに、「一斉活動」を通して「主体的な学び」の基礎を築く。
- ④ 樹齢100年を超える高さ20m余りの木々に覆われた園庭の小さな森を中心とする園庭での「自由遊び」を中心とした活動を通して子どもたちに内在する様々な資質・能力を開花させ、進展させる。園庭整備工事が竣工する2学期以降の園庭教育活動のさらなる充実を目指す。

### (3) 「幼稚園案内」（パンフレット）の更新

成城学園100周年という節目の年に当たり、第2世紀の成城教育の導入初期を担う幼稚園として、学園の教育改革「3つの柱」の教育実践。「主体的な学び（アクティブ・ラーニング）」

などの幼児教育先進実践園としての価値を効果的にアピールするために、「幼稚園案内」（パンフレット）を一新し、従来のB6版からA4版へ変更、構成の見直しなど大幅にリニューアルを行い、優れた教育内容が可視化されたパンフレットを作成し、多くの志願者獲得を目指す。

## 2 教育環境整備事業

成城の学園らしい教育環境が、  
自主的な学びと夢をバックアップします。

## ■ 学園

### (1) 成城学園100周年記念教育環境整備計画事業

#### 【第一期】

#### ① 第一グラウンド人工芝化工事

第一グラウンドの人工芝化を行い、強風時の砂埃の抑制や、雨天直後のグラウンドの利用を可能にし、安全性や利便性を高めていく。

また、グラウンド照明を水銀灯からLEDへ更新することで、省エネルギーへの対策も行っていく。

#### ② 幼稚園園庭整備工事

平成26年度に実施した東京農業大学との連携事業にて策定した園庭再生計画に基づき、自然に親しむ教育環境の整備を行う。また、ウッドデッキの改修等の園舎整備も行い、幼稚園全体の教育環境の改善や向上を図る。

#### 【第二期】

#### 初等学校本校舎改築工事

平成29年4月より旧中学校校舎の改修工事を行い、同年9月より初等学校の仮設校舎として使用する。

初等学校本校舎は平成29年10月より解体工事を行い、平成30年4月より新校舎の工事に着手、平成31年5月末に竣工予定である。竣工後、備品の搬入設置や仮設校舎からの移転作業を行い、平成31年9月より使用を開始する。

### (2) 省エネルギー対策

#### 学園内の外灯更新

法人事務局棟や澤柳記念講堂、杉の森周辺の外灯を水銀灯からLEDへ更新し、電気消費量を削減する。

### (3) 安全対策

#### 災害対策・安全対策維持関係

災害用備蓄品を各学校に振り分け備蓄、更新を行う。

大学分	約3,000人×3日分
中学校高等学校	約1,900人×3日分
初等学校	約800人×3日分
幼稚園	約140人×3日分
教職員	約500人×3日分



## ■ 大学

教室の不足、バリアフリーへの対応、建物の外観や内部施設の老朽化といった問題を改善するために、平成30年度からの改修工事に反映するべく、「校舎等整備検討ワーキンググループ」を組織し、具体的計画を策定する。

また、教育環境整備の一環として、各教室については、順次デジタル化等を図り、整備する。

### (法学部)

- ①法学資料室のリノベーションを完成させ、より機能的でもっと使いやすく、学びたくなる学習環境を提供する。
- ②外部研究者・研究員等の受け入れが可能となるように、共同研究室を5号館内に設置する。

### (図書館)

- PC端末とPC貸出ロッカーの増設  
全学的なPC端末への需要に応えるため、新たに20台の学習用PCを設置するほか、地下1階にPC貸出ロッカーを増設する。
- 静寂ルームの設置  
静寂な学習環境を維持するため、2階と3階に1部屋ずつ静寂ルームを設置する。
- 地下1階閲覧椅子の更新  
良好な学習環境を整えるため、地下1階の閲覧椅子を更新する。
- ピアチューター制度への取り組み  
教育イノベーションセンターや教務部とも連携しながら、制度の導入に向け活動を開始する。

### (メディアネットワークセンター)

- ①教育用PCリプレイス  
PC教室、教卓、オープンスペース等に共用PCとして設置している教育用PCをリプレイスする。処理の高速化とOSのWindows10への更新とにより、質の高い専門教育と自主的な学びのベースとなる環境を提供する。従来PCよりも軽量化、コンパクト化されてポータビリティが向上するため、アクティブ・ラーニングの促進にもつながる。
- ②LL教室のCALL教室化  
語学教室であるLL(Language Laboratory)教室を、PCを常設したCALL(Computer Assisted Language Laboratory)教室へ改修する。動画ファイルの取り扱いや音声波形比較などが可能になり、従来よりも多角的な国際教育のサポートを実現する。
- ③オンラインコミュニケーションツールの導入  
これにより、遠隔授業の実施や、持ち込みデバイスへの資料共有が可能となる。また、教員・学生間のコミュニケーションツールとして、遠隔にいながらにして対面を伴った交流が行える。この結果、きめ細かい個別指導が可能となり、本学の強みである少人数教育に注力することができる

ようになる。

## ■ 中学校高等学校

新校舎を1年間利用してきた上での、設備面や運用面の課題点をまとめ、より使いやすくできる部分については改善していく。またホワイトボードやプロジェクター・電子黒板など初めて広く導入したものについては利用者相互の情報交換を密にして、より効果的に利用できるよう工夫する。

改築校舎の工事がすべて完了し、4月より南棟・芸術棟Ⅰ・Ⅱの利用が始まる。(音楽は昨年度3学期よりすでに移転済み)新しくなった校舎でより充実した授業が展開できるよう、検討していく。新たな機器の有効利用や生徒の動線の変更なども確認していく。

高校旧本校舎跡の100年の森が完成し、生徒が気持ちよく過ごせる場所として利用しやすく整備していく。自転車置き場等もリニューアルされるので校内でのルール作りなども行っていく。

大グラウンドの人工芝化に伴って工事が予定されている中学校テニスコートと高校バレーコートの周辺の整備について、より具体的に検討していく。

いくつかの教科で新任の専任教諭の採用を行っていく。

## ■ 初等学校

### (1) 新校舎建築

3つのキーワード「行きたくなる」「居心地の良い」「学びやすい」を基にして初等学校の校舎建築委員会と日建設計、学園法人とで検討を重ね、新校舎プランの基本設計まで進めることができた。

「行きたくなる校舎」は①低層2階建て(成城ならでの自然に囲まれた教育環境を大切に)②木のぬくもり(できる限り木をたくさん使い、子どもたちが裸足で活動できる空間を作る)③図書スペースの新設(図書室の利用制限(3年生以上)を撤廃し、1年生から誰でも利用可能とする。

「居心地の良い校舎」は①異年齢(1~6年生)を1ブロックとする教室配置(異年齢教育のさらなる充実と発展を作り出す配置とする)②「つながりルーム」の新設(1階に多目的教室を設け、交流スペースやランチルームとして利用する)。

「学びやすい校舎」とは「落ち着いて勉強できる空間」を作ることである。そのために①天井を高くし教室内に開放感を持たせる。②天窗から太陽光を取り入れる(間接照明)。③木のぬくもりを感じられる床や壁にする。④普通教室と特別教室を外廊下で回廊のようにつなぐことで、教室移動を便利にスムーズに行うことができるようにする。

という4点を中心に建築計画を練った。

また「その他」として、防犯面を考慮した校舎配置(先生の部屋や事務室を正門横に設置することで、業者等の入構を一定範囲に制限できる)にも配慮した。

## (2) 仮校舎(旧学園中学)に移転

初等学校は平成29年7月に1学期を終え、仮校舎(旧学園中学)に移転する。そして平成31年の1学期までの2年間で中学校旧校舎で過ごす。その間に初等学校の新校舎が建築され、平成31年9月の2学期から初等学校地に戻り、新校舎での生活が始まる、という予定である。

そこで昨年は仮校舎(旧学園中学)を初等学校用に改修する計画の立案と、教員が現場に下見に行って来年度からの生活の有り様を検討した。

いよいよ今年の7月に引っ越しである。移転先の中学校旧校舎での2年間は、初等学校にとって前例のない出来事の連続であろう。だからこそ教職員、子どもたち、そして保護者も含め、みんなで協力して乗り切っていきたい。

## ■ 幼稚園

### (1) 園庭整備計画

平成26年度、東京農業大学との連携活動の一環として実施したワークショップの成果となる「園庭整備計画」の実現に向けて、平成27年11月より、幼稚園・設計会社・法人管財課による三者協議を重ねて実施設計をまとめた。園児が新たな園庭を十分活用できるかをポイントに置き、「主役は森で、施設・遊具は媒体」、即ち、森の中に点在する施設・遊具での遊び・活動を通じて「生きた森」自体を実体験することに重点を置いて議論を重ね、その結果、森の中に存在する遊具等の施設数は、当初の計画から減らし、園児の想定動線にも十分配慮したシンプルな構成での設置計画となった。100周年施設整備事業第1期事業として平成28年度内に実施設計を完了し、平成29年度2学期からの運用に向けて整備工事を開始する。

### (2) 園舎修繕工事

平成18年1月に新園舎が竣工してから11年余り、園舎の随所に傷みが生じ、子どもたちの安全にも配慮が必要になるとともに、機器の更新時期を迎え、ランニングコストの低減、省エネルギー対策への寄与などを含め、ウッドデッキ更新・雨漏り対策・空調機器更新など、100周年施設整備事業第1期事業として大規模修繕を実施する。

## 3 地域・社会連携事業

自らの価値と役割を認識し、  
地域、そして社会とともに歩みます。

## A. 産業連携事業

### ■ 学園

小田急電鉄株式会社との「連携・協力に関する基本協定」

(平成25年5月27日締結)、日本アイ・ビー・エム株式会社東京基礎研究所との「提携と協力の推進に関する包括的な協定」(平成26年3月12日締結)といった学園が締結している産学関係については、教育・研究振興促進および学園が有する知的資産の社会への発信・還元につながる各校の具体的な取り組みを全面的にバックアップする。

## B. 地域連携事業

### ■ 学園

学園創立100周年を記念して、南北成城商店街(成城南商店街・成城商店街振興組合)との共同企画を検討している。具体的な施策については協議中だが、学園が街に感謝し、街が学園100周年を祝う双方向の企画を予定している。

また、創立者澤柳政太郎の出身地である長野県と締結している、相互の幅広い連携・交流に向けた包括協定(平成26年3月14日締結)についても、長野県有林の一部に開設した「成城学園ふるさとの森」の活用など、さらに関係を発展させていく。

### ■ 大学

#### (学びの森)

成城大学生涯学習支援事業「成城学びの森」は、本学教授等が講師となり、春夏・秋冬の二期に分けて、講座を開講するコミュニティー・カレッジ(少人数ゼミ形式複数回講座：有料)と、オープン・カレッジ(成城緑の方を講師とする講演会：無料)の二つの事業を展開してきている。どちらの事業も事後アンケート結果は、参加満足度が90%を超え、高い評価を得ており、地域・一般の方からの期待も高い。これらの満足度および期待値を踏まえ、平成29年度においても、成城大学の社会貢献として、同等以上の成果の実現を目指すとともに、新たな企画(長期休暇中の講座開設等)の構築を進めていく予定である。

#### (図書館)

- ・世田谷区民への図書館利用(継続事業)
- ・平成29-30年の2年間、私立大学図書館協会東地区部会の役員校として、加盟図書館との連携を図りながら、私立大学の発展を目指す。

### ■ 幼稚園

エコキャップ活動の推進(成城自治会との連携)

幼稚園は成城自治会と連携してエコキャップ活動(開発途上国の子どもたちにワクチンを送る活動)を推進しており、平成28年度は84kgほどのペットボトルキャップ(登園時に子どもたちが玄関ホールに設置した専用カゴに入れて回収)が集まり、3学期に成城自治会への引き渡し式を行った。成城自治会は、優れた活動実績のある団体に委託してワクチンを

送る活動を行い、幼稚園もその活動に寄与することができた。幼稚園の子どもたちにとっては、資源がむだにならないことや、同じ年ごろの子どもたちの健康に寄与できているという意識を持つことは教育的にも意味があり、平成29年度も成城自治会と連携してエコキャップ活動を継続して実施する。

## C. 「知」の発信事業

### ■ 大学

#### (経済学部)

成城学園創立100周年・経済研究所創設30周年を記念して開催される経済研究所のシンポジウム「2050年の世界に向けて日本は何をなすべきか」を大学院経済学研究科とともに共催する(平成29年7月1日)。

#### (法学部)

法学部創設40周年に伴う記念論文集を刊行するとともに、ホームカミングデーにおける講演会に止まらず、外国人講師を招いた記念講演会を7月に開催する予定である。

#### (図書館)

- 貴重資料の画像公開  
本学が所蔵する貴重書や歴史的資料を広く外部に情報発信する。
- 100周年を記念した各種展示企画  
学部や研究所との共催により、資料の展示を行う。

## 4 その他の学園・各学校が行う主な新規事業

### ■ 学園

#### (1) 学園広報の推進事業

「情報を通じて学園の価値を高める」ことが軸であり、学園広報委員会などを通じて各校との連携を密にしなが、受験広報と両輪として事業を推進していく。特に学園創立100周年となる今年度は、Web連載企画「卒業生100人メッセージ」、市販本「成城学園ムック」、電子版「教育論抄」、イベントカー(電車)、ラッピングバスなど、特別企画を多く計画しているが、単なる一過性のお祭りで終わらせず、「学園価値の向上」につながる契機としたい。

具体的には、100周年“後”を見据え、ブランドイメージの統一、広告ではなく記事として取り上げられる活動へのシフト、WebサイトおよびSNS(Facebook、Twitterなど)の積極的活用といった、常に“次の世代”を意識した広報戦略を立案していく。

### ■ 大学

#### (成城学園創立100周年記念事業全学ホームカミングデー)

四学部および旧短期大学の卒業生および退職教員を招い

た全学ホームカミングデーを平成29年12月9日に開催する予定である。なお、大学卒業生以外にも広く呼びかけも行う予定にある。

予定されているプログラムの内容は、澤柳記念講堂でのシンポジウム企画「成城学園の空間(仮題)」、各学部および旧短期大学部による講演等の企画、パネル展示、懇親会等である。(成城学園創立100周年記念成城大学大学院澤柳奨学金制度)

大学院全体として、成城大学大学院澤柳奨学金の運用が開始される。

#### (経済学部)

- ①成城学園創立100周年記念論文集を平成30年3月に刊行する。
- ②「成城学園創立百周年記念経済学部ゼミ卒業生の集い」と冠してゼミナールごとに学園内施設にて同窓会を開催する。

#### (文芸学部)

<学園100周年記念事業への参加>

平成29年6月に『成城文藝』第240号を成城学園創立100周年記念号として特別編集して刊行する。

また、成城学園創立100周年記念事業の一環として、以下の二つのシンポジウムを開催する。

- ①「わが青春をかえりみて～古代ギリシアが出発だった」(仮題、平成29年10月14日)
- ②「日本語を『表現する』／『考える』」(仮題、期日未定)

#### (社会イノベーション学部)

<学園創立100周年・社会イノベーション学部創設10周年記念事業>

周年記念の新しい教育プログラムとして、平成28年度に開設した「社会イノベーション特殊演習」の単位修得者の中からさらに海外プログラムに参加する者に対して補助を行う。

#### (経済学研究科)

成城学園創立100周年・大学院経済学研究科50周年記念事業として、「経済学研究科大会(仮称)(講演会、およびホームカミングデー)」を平成29年秋(予定)に開催する。

#### (文学研究科)

<学園100周年記念事業への参加>

成城学園創立100周年・大学院文学研究科創設50周年を記念して、以下の二つのシンポジウムを行う。

- ①「私たちの知らない日本の<言葉> ― 本州・九州・琉球の方言と格表示」(仮)
- ②「江戸モデル封建制／民主制とは何か ― 無私精神と個人の重視 ―」(仮)

#### (共通教育研究センター)

<学園創立100周年・共通教育研究センター開設10周年記念事業>

次の10周年の共通教育研究進展を期し、講演シリーズ「いま、教養教育を問う」と題し3回の講演会、ワークショップ「表現教育の可能性」1回の開催を行う。

## ■ 初等学校

### ① 100周年記念「体育祭でのページェント」

100周年を記念して、春の運動会のプログラムに「100周年記念ページェント」を入れる。これは初等学校で生まれた歌に合わせたダンスを1～6年生が披露し、児童・教職員・参観している保護者の全員で100周年を祝う出し物である。

### ② タイムカプセルの開封式

昭和62年に創立70周年記念の行事として、当時の全校生徒が「30年後の自分」に当てた手紙をカプセルに入れた。その手紙を入れた元小学生たち(36歳～42歳)が集い、タイムカプセルを開けて自分の手紙を読むという「開封式」を行う。

### ③ 校舎のお別れ会

平成29年9月からは新校舎建築のために、北校舎(本校舎)と南校舎(低学年棟)は解体作業に入る。そこで在校生は1学期末に、卒業生や保護者は夏休みに来校してもらい、みなで盛大にお別れ会を行う予定である。

## ■ 幼稚園

充実した幼児教育を推進するとともに、未就園児保護者を対象とした「2歳児親子クラス」、および在園生を対象とした「アフタースクール」、以上2事業の平成30年度本格実施を目指し、実施上の問題点等を探りながら試行的に実施して実施状況を精査・検証して本格実施に備える。

### ① 「2歳児親子クラス」の試行

近年多くの私立幼稚園では未就園児を対象とした教室の開講やその保護者を対象にした育児相談会・子育て支援活動を実施しており、志願者獲得につながるとともに、幼稚園、受験生保護者双方にとってプラスになるとの評価が確立しつつある。成城幼稚園ならではの質の高い「2歳児親子クラス」の実現に向けて試験的に実施し、本格実施に向けて体制を整える。

### ② 「アフタースクール」の試行

正規の教育活動終了後、「アフタースクール」という形で子どもたちを一定時間預かる私立幼稚園が増加している。また保護者からの要望も出ており、講座内容・講師・施設・預かった子どもたちの安全の確保などの課題を探りながら、平成29年度2学期からの試行に向けて準備を進め、数講座を試験的に開講して実施状況を精査し、成城幼稚園にふさわしい「アフタースクール」を模索する。

# 平成29年度予算の概要

## 活動区分資金収支計算書

### 1. 教育活動収支

学生生徒等納付金に関しては、平成27年度実施の大学の納付金額改定、平成29年度実施の中学校・高等学校納付金改定による増収を見込み、89億4,300万円を計上した。手数料収入は、平成29年度入試の各校志願状況を考慮し、4億2,400万円を計上した。寄付金は、未来募金のうち学生・生徒等支援及び学園内緑化推進を目的とする1,500万円を特別寄付に、一般寄付金は近年の傾向と平成28年度実績を勘案し、1億9,700万円を計上した。経常費補助金については、平成28年度予算とほぼ同額を見込んだ。以上の結果から、教育活動収入は108億7,500万円となり、平成28年度実績見込額より1億2,700万円増額して計上した。

支出面では、人件費予算は人数の増加を極力抑えたうえで、定期昇給分及び退職者数の増による退職金支出の増加等を加味し算出した。教育研究経費は、第2世紀プラン教育改革経費、ICT環境整備費等、学園創立100周年記念事業経費等を計上し、平成29年度も引き続き教育改革に向けて重点的に予算配分を行った。管理経費は、学園広報経費、未来募金関連経費、学園創立100周年記念行事費などについて予算計上した。

以上の結果から、教育活動支出は99億3,900万円となり、平成28年度実績見込額より3億3,000万円増額して計上した。

これら収支の状況から、教育活動収支は8億6,900万円の収入超過と、平成28年度実績見込額を5,000万円下回った。

### 2. 施設整備等活動収支

収入においては、施設設備寄付金収入として未来募金のうち3億5,400万円、及び施設設備補助金収入1,400万円を計上、支出においては、施設・設備関係支出として、第1グラウンド人工芝化工事6億2,700万円、初等学校本校舎改築工事中に使用する旧中学校校舎の改修工事2億1,400万円などを計上し、更に第2号基本金引当特定資産への繰入額2億円を計上した。その結果、施設整備等活動収支は10億5,600万円の支出超過となった。

### 3. その他の活動収支

収入においては、有価証券売却収入として債券の年度内償還額9億円、受取利息・配当金収入として債券ならびに預金の利息1億400万円、これにその他預り金受入収入など1億8,800万円を加え、11億9,200万円を計上、支出は、有価証券購入支出として債券への再投資分3億円、借入金返済支

出1億5,700万円、借入金等利息支出1,900万円、その他預り金支払支出など1億8,800万円を計上した結果、その他の活動収支は5億300万円の収入超過となった。

これらの各収支に加え予備費3億円を計上した結果、支払資金は、平成28年度末より1,600万円の増額となり、前年度繰越支払資金の見込額44億5,900万円と合計した翌年度繰越支払資金は44億7,500万円となった。

学園全体の総資金は、第2号基本金引当特定資産が2億円増加、第3号基本金引当特定資産の1,000万円増加に加え、未来募金による各種特定資産の増加1,500万円により、特定資産は2億2,500万円増加し24億2,800万円となったが、有価証券が債券の償還により6億円減少し、60億6,900万円となったため、これらに翌年度繰越支払資金44億7,500万円を合わせて129億7,200万円となった。なお、これは長期財務計画(平成28年9月理事会承認)における資金収支計画の平成29年度期末資金残高125億9,300万円と比較し、3億7,900万円上回っている。

## 事業活動収支計算書

### 1. 教育活動収支

活動区分資金収支計算書の教育活動収支と収入面では変わらず、支出面の相違は、資産の減価償却額を計上することと退職金会計処理の違いによる人件費の差異のみである。教育活動収支は5,400万円の支出超過となり、平成28年度実績見込額を2億9,600万円下回った。

### 2. 教育活動外収支

昨今の為替、金利等、運用環境の改善に鑑み、資産の運用収入(受取利息・配当金)を1億400万円計上した。これから借入金等利息を除いた教育活動外収支は、8,500万円の収入超過と、平成28年度実績見込額に対し2,400万円の減額とした。

教育活動、教育活動外の各収支の結果、経常収支は3,100万円の収入超過となり、平成28年度実績見込額に対し3億2,000万円減額となった。

### 3. 特別収支

施設設備寄付金として未来募金の3億5,400万円を収入に計上した結果、資産処分差額を除いた特別収支は3億5,600万円の収入超過となった。

これらの各収支に予備費2億円を計上し、基本金組入前当

年度収支は、1億8,700万円の収入超過を見込んでいる。

#### 4. 基本金組入額

第1グラウンド人工芝化工事6億2,700万円、旧中学校校舎の改修工事2億1,400万円、幼稚園園庭整備工事5,500万円、初等学校本校舎改築工事設計監理料3,000万円のほか、リース他による備品の取得、図書の整備等、資産の取得による組入れが総額12億900万円、加えて借入金の返済による組入れ1億5,600万円、創立100周年教育環境整備事

業に係る先行組入2億円から、第1グラウンド既存設備取り壊しによる取崩し2,300万円、施設設備の老朽化に伴う取崩し6,000万円、リース契約終了に伴う取崩し3,000万円など、資産の除却等による取崩し分1億1,900万円を減じ、基本金組入額は、14億7,000万円となった。

以上の結果、平成29年度収支差額は12億8,400万円の支出超過となり、翌年度繰越支出超過額は90億2,800万円となる見込みである。

### 平成29年度に実施する主な事業内容

(単位：千円)

<b>■ 創立100周年教育環境整備事業費</b>	<b>1,076,418</b>	<b>■ 創立100周年事業関係経費</b>	<b>270,196</b>
第1グラウンド人工芝化工事	641,267	大学 全学ホームカミングデー開催経費	12,193
初等学校 旧中学校校舎改修費その他	248,190	経済学研究科 研究科創設50周年事業費	730
初等学校 本校舎改築工事	84,036	文学研究科 創立100周年・研究科50周年記念シンポジウム	5,521
幼稚園 園庭整備工事・園舎補修工事	102,925	経済学部 創立100周年記念プレゼンテーション大会他開催費	900
<b>■ 国際教育関係費</b>	<b>135,764</b>	文芸学部 「成城文藝」100周年記念号刊行費	2,592
学園英語一貫教育推進事業費	93,246	文芸学部 創立100周年記念シンポジウム関係経費	2,616
国際センター 交換留学生奨学金等(※経常的経費)	34,506	法学部 学部創設40周年・研究科30周年記念事業費	4,927
国際センター 英語検定試験奨励金等	605	社会イノベーション学部 学部創設10周年記念事業費	3,000
中学校・高等学校 英語検定試験奨励金等	358	経済研究所及び民俗学研究所 創立100周年記念事業費	1,680
初等学校 外国人講師派遣委託費	7,049	共通教育研究センター センター設置10周年記念事業費	1,693
<b>■ ICT環境整備費等</b>	<b>115,596</b>	大学図書館 貴重書等電子画像公開システム構築費等事業費	1,193
大学 教育用パソコン更新	36,359	大学 学内緑化景観整備工事	5,076
大学 CALLシステム更新	21,272	初等学校 100周年記念行事等開催経費	4,365
図書館 PC貸出ロッカー設置工事	11,121	初等学校 旧中学校校舎への移転費用	5,125
大学 3号館7号館教室機器更新およびデジタル化工事	16,810	教育研究所 「成城学園百年史」編纂関係経費	11,540
大学 8号館資料室改修工事	5,649	未来募金 広報活動費	56,162
中学校・高等学校 パソコン教室リニューアル工事	24,385	記念コンサート開催経費	10,312
<b>■ 安全対策・危機管理関係経費</b>	<b>42,791</b>	記念ピアノリサイタル開催経費	3,870
情報セキュリティ対策強化費	19,222	記念式典・祝賀会開催経費	55,251
大学 2号館非常放送設備改修工事等	6,019	Web広告・新聞広告掲載料等広報活動費	81,450
各校 防災備蓄品更新費等	9,408		
各校 防災・防犯対策費	8,142		

学園創立100周年となる平成29年度は、学園の未来を創造する具体的な指針である「第2世紀プラン」の下で、教育の質を高めるべく教育改革を第一としながらも、教育環境整備および地域・社会連携を一層推し進めることで「第2世紀の成城教育」を社会に示すこととなります。よって、本年度も、限りある収入の下、明確な目的を定めた具体的な事業計画への配分を優先し、第2世紀プランを推進するための具体的な施策に対して、引き続き積極的な予算配分を行います。

一方、学園を取り巻く環境は、ますます厳しさを増し、急激な少子化の流れを受けて教育機関の淘汰は現実のものとなります。また国は私学助成における大学の定員管理の適正化を明らかにしており、充足率の基準が厳しくなることから、校納金等の収入への影響は避けられません。

学園の中長期の財務見通しにおいても、平成32年度に予定されている大学入試制度改革の影響も考慮すると、校納金、手数料、補助金収入などの収入増加の要因を見いだすことは困難です。支出にあっては、ここ数年行った経常的経費の削減は一定の改善効果は上げていますが、消費税率の再改定も予定される中で、第2世紀プランに基づく事業費を確保するためにも、経常的経費の削減は継続的な課題となります。

更に支出の過半を占める教職員人件費は漸増傾向にあり、限界とされる人件費比率60%を平成31年度以降は大幅に超えることが確実視され、同時に経常収支差額の確保が困難となる見通しです。学園の財政安定のためには、一層の経費の削減、特に人件費の抑制および削減に関しての早急な対応が必要です。

上記を踏まえ、平成29年度の予算策定の重点課題として以下の点を掲げます。

1. 教育改革面では、各学校が個々に、そして連携して取り組

む“3つの柱”「国際教育」「理数系教育」「情操・教養教育」の具体的な事業、およびICT機器を活用する教育・研究活動等に対しては、優先的な予算措置を行う。

2. 経常的経費に関しては、第2世紀プランの中核課題である教育改革の具体的な事業費を確保するために、平成28年度経費予算額を削減することとし、また、臨時的経費は前述した項目以外は削減する。
3. 教育環境整備事業面では、初等学校本校舎改築工事、これに伴い仮校舎となる旧中学校校舎改修工事、第一グラウンド・多目的グラウンドの人工芝化工事、幼稚園の園庭改修工事、大学1・2号館のバリアフリー化工事を行う。また、環境・省エネルギー対策は設備・建物毎に焦点を絞り計画的に行う。
4. 人件費は現行総額枠内に抑制するよう努める。平成29年度の人員計画は、教員配置計画については学園長と各学校長および法人事務局長の審議に基づくものとし、職員の配置計画については人事部門と各部門長とで協議したうえで、法人事務局長と大学事務局長および総務部長の審議を基に、予算化する。
5. 創立100周年を契機(キーワード・きっかけ)とした積極的な広報活動を行うための予算措置を行い、成城学園の伝統と第2世紀プランの中核である「教育改革の具体的な価値」を学園の内外に向けて確実に伝える。
6. 学長裁量経費を定め、学長のリーダーシップの下で大学の教育研究の充実を図る。

学園各学校、各部署においては「第2世紀プラン」に基づき作成した平成28年度事業計画を確認した後に、上記の重点課題を検討し、新たに単年度、もしくは複数年度の事業計画を作成し、その上で平成29年度予算案を立案・提出する。